

中央大学学員会 第21号 49年白門会会報

発行日 平成22年12月4日
発行人 山崎 厚太
発行所 中央大学学員会49年白門会
印刷所 (有)東光美術印刷

東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学駿河台記念館学員会事務局

49年白門会のホームページ → <http://www.gakuinkai.com/hakumon49/>

※メールアドレスの登録・変更は

hakumon@gray.plala.or.jp にご連絡ください。

49年白門会10周年のホームページ <http://it.saloon.jp/lab/hakumon49/>

CONTENTS

- 1ページ ★幹事長10年を振り返って 中島章夫
- 2ページ ★2010年度総会議案の報告
- 3ページ ★2010年度総会、懇親会報告
- 4ページ ★会員からのエッセー
- 6ページ ★友へのメッセージ 三瓶富子 ★楽苦我喜 高柴富士男
- 7ページ ★ちょっと役立つアラカン写真講座 高橋和幸
- ★ビアパーティー報告 小澤秀敏 ★ゴルフ会奮闘記 高木一成
- 8ページ ★浅草寺参拝と「花やしき」報告 山崎厚太 ★事業部掲示板
★会費納入のお願い ★編集後記

狭まってゐるのを感じたことを記憶

初めて顔合わせでの役員決定までは、重苦しい雰囲気、確かな声まで出て、次第に私の包围網が狭まってゐるのを感じたことを記憶

学員会から「49年白門会」の立ち上げの話があり、当時理工学部事務室に勤務していた私にも、発起人の一人としてのお声がかかりました。中央大学に勤めておりましたので、当然かと思いましたが、他にも同期の職員が何人かおりましたので、幹事の一人としてお役に立てればと引き受けました。



5月の学員総会で、10年間の幹事長活動で学員表彰された中島氏。会長とのツーショット。

後、多摩の法学部事務室、再び都心の御茶ノ水の学員会本部事務局、また多摩の学生課、そして現在の創立125周年記念事業募金推進本部事務局と都心と多摩を交互に移り歩いたこと

行ってきましたが、これも会長をはじめとして、役員の方々、会員の皆様のお力のおかげだと思えますので、改めてお礼を申し上げます。

結局、私が幹事長を引き受けることになり、早10年が経過しました。お陰様をもちまして、会員の皆様の暖かいご協力のもと、会も順調に軌道に乗りましたことを、心より感謝申しあげますとともに、今後とも更なるご支援をお願いする次第です。

念しておきます。

阿久悠の代表曲「青春時代に」に「青春時代は、あとからほのぼの思つもの」という素晴らしい詞があります。我々も、多くの同期が第2の人生に旅立とうとしている今、今年125周年を迎えた中央大学を「過ぎた青春時代をほのぼの」と思い浮かべ、健康一番で皆さんの力で、49年白門会を盛り上げてゆこうではありませんか。そして、一人でも多くの方と、150周年記念をお祝いできますよう心から祈念しておきます。

素晴らしいことと思います。

最後になりましたが幹事長としての喜びについて若干触れますと、入会したのに、会費等全く音沙汰の無かった方からの会への参加ならびに会費の振り込があった時には、「ああ、良かった」と、喜びもひとしおです。200余名の会員がおりますが、中には、全く音沙汰のない方もいらっしゃるようです。そのような方が一人でも多く、60歳前後となった今、駿河台、後楽園で同じ時代を過ごした者のこの会で親睦を深めるのは、素晴らしいことと思います。



(題字・葛西聖司)

幹事長10年を振り返って

49年白門会幹事長 中島 章夫

しております。

とが、幹事長職を遂行する上で、一番の障害となったことは、何かと迷惑をおかけしたのではないかと思います。

最後になりましたが幹事長としての喜びについて若干触れますと、入会したのに、会費等全く音沙汰の無かった方からの会への参加ならびに会費の振り込があった時には、「ああ、良かった」と、喜びもひとしおです。200余名の会員がおりますが、中には、全く音沙汰のない方もいらっしゃるようです。そのような方が一人でも多く、60歳前後となった今、駿河台、後楽園で同じ時代を過ごした者のこの会で親睦を深めるのは、素晴らしいことと思います。

【49年白門会2010年度総会】

2010年7月の最初の土曜日に御茶ノ水の駿河台記念館において10年度の総会が開かれた。役員改選で新しい人も加わり、設立11年目の新しい一步を踏み出した。

第1号議案

2009年度事業活動報告

- 1:2009年4月4日(土) 寄席見学「新宿末広亭」(新宿末広亭:出席者数8名)
- 2:2009年7月4日(土) 10周年記念総会
浅香光代 VS 葛西聖司 トークショー
(茅場町「鉄鋼会館」:出席者数55名)
- 3:2009年8月1日(土) 納涼ビアパーティーと東京都真美術館見学(恵比寿カトープレイス:出席者数12名)
- 4:2009年10月25日(日) 第20回中央大学ホームカミングデー参加(中央大学多摩校舎:出席者数25名)
- 5:2009年11月28日(土) 石神井公園野鳥観賞の会(石神井公園:出席者数15名)
- 6:2009年1月30日(土) 中央大学49年白門会2010年新年会(銀座レストランサンミ本店:出席者数30名・2次会を含めて)
- 7:2010年3月6日(土) 神田明神と湯島天神梅祭の散策会(神田明神・湯島天神:出席者数19名)
- 8:中央大学49年白門会会報の発行
第18号・2009年6月6日(土)
第19号・2009年12月5日(土)
- 9:中央大学49年白門会役員会活動(10周年役員会を含む)
第49回・2009年4月15日(水)
第50回・2009年5月13日(水)
第51回・2009年5月27日(水)
第52回・2009年6月6日(土)

第2号議案

2009年度収支決算書 (2009年4月1日~2010年3月31日)

〈収入の部〉 (単位 円)

費目	決算額
会費収入	533,000
懇親会収入	484,941
雑収入	266,119
収入の部合計	1,284,060

〈支出の部〉

費目	決算額
通信費	309,690
事業費	385,210
懇親会費	517,017
事務費	15,760
交際接待費	475,035
雑費	13,096
支出の部合計	1,715,808
収支差額	▲431,748
前年度繰越金	1,058,786
次年度繰越金	627,038

第3号議案

2010年度事業計画案

- 「中央大学49年白門会」事業計画基本について
会員相互の親睦・交流、会の組織強化、中央大学および学員会他支部との交流を図るための活動を行う。
(1)親睦会・懇親会等の開催と各種同好会活動の実施
(2)会員名簿・会報の発行

第5号議案

2010年度役員案

- 会長 山崎厚太(経) 再任
- 副会長 葛西聖司(法) 再任
- 副幹事長 宮川保(経) 再任
- 幹事長 山崎司平(法) 再任
- 副幹事長 中島章夫(経) 再任
- (広報部長) 大竹力三(法) 再任
- (会計部長) 原伸正(経) 新任
- (事業部長) 小澤秀敏(経) 新任

会計監事

- 荒木康裕(法) 再任
- 益田耕二(法) 再任
- 柴田明(理) 再任
- 石見望(理) 再任
- 渡邊秀和(文) 再任
- 石川晶雄(経) 再任
- 高橋和幸(法) 新任
- 藤本真也(法) 新任
- 安藤正幸(経) 新任
- 大谷洋一(法) 新任

第4号議案 2010年度予算案

〈収入の部〉

費用	概要	予算額
会費収入	会員100名×@3,000円+新規会員10名×@4,000円	340,000
懇親会収入	総会・新年会@5,000円×40名×2回	400,000
雑収入	(125周年寄付金還付金、学員会からの支部活動協力金)	150,000
収入計		890,000
前年度繰越金		627,038
合計		1,517,038

〈支出の部〉

費用	概要	予算額
通信費	会報発送代他	50,000
事業費	会報制作費他	160,000
懇親会費	総会パーティー費・新年会費他	400,000
事務費	封筒代他	50,000
交際費	125周年寄付金他	60,000
雑費	振替手数料、インターネット代他	10,000
支出計		730,000
次年度繰越金		787,038
合計		1,517,038

懐かしい御茶ノ水で総会・懇親会を開催!!

2010年7月3日(土)に10年度の総会が、10年前の設立総会と同じ場所の、駿河台記念館で行われました。アラカン世代の同期30名が集合。役員の変更もあり、また新会員の参加など顔触れもリフレッシュ。御茶ノ水界限は36年前の面影は残しておりませんでした。私たちの学生時代の思いは健在でした。

10周年で新体制 役員入れ替え!!

7月最初の土曜日は恒例の「49年白門会」の総会日。今年は3日でした。今夏の猛暑を予感させるような蒸し暑い、梅雨明け間近の神田御茶ノ水。ここ数年の総会は、後楽園の理工学部校舎で行われていたが、今年には創立10周年ということもあり、10年前に設立総会が行われた、中央大学駿河台記念館で開催されました。会場になった記念館1階のレストラン「プリオール」には午後3時の総会開始時には30名の会員が集まりました。レストランの半分を仕切って会場を作り、総会のスタート。

山崎会長の「昨年は10周年記念総



会が行われた結果11名の方が新たに新会員となられた」という挨拶にあらうように、この総会にも数名の新会員の出席が見られた。昨年は10周年記念総会だったが、今回は2000年に設立してからの10周年目の総会になります。

議長には益田耕二さんが選ばれ早速議案の審議が行われた。第1号議案の09年度の事業活動報告を石川事業部長が、第2号、4号議案の09年度収支決算報告、10年度予算案に対しては中島幹事長が、10年度の事業計画案は石川事業部長がそれぞれ説明され、各議案とも賛成の拍手で承認されました。また、会計監査報告は小澤秀敏会計監事から報告されました。

今年の総会は2年毎の役員改選の時期でもあり、事前に立候補者を募集したが、立候補者がいなかったことを宮川選挙管理委員長から発表があった。その発表を受けて、山崎会長が役員候補者を紹介する形で候補者案を発表し審議しました。再任の候補者案と会計部長に原伸正さん、事業部長に小澤秀敏さん、会計監事に安藤正幸さん、藤本真也さん、大谷洋一さん、副幹事長に高橋和幸さんをそれぞれ新しく候補にする案が全員の拍手で承認されました。

約40分で総会も無事終了し、懇親会用にテーブルをセッティングしてから懇親会が開かれた。総会で帰る人と、懇親会から出席する人がいて人数に少し変動がありました。

定年、還暦、初参加 懇談の輪が広がる

石川晶雄さんの司会により、山崎会長の挨拶と乾杯の発声で会が始まった。今年も名古屋や新潟から駆け付けてくれた会員や、初めて参加する会員などを囲み懇談の輪が広がった。久しぶりのレストランでの懇親会なので、例年よりは料理にバラエティーがあった。

会の途中で中島幹事長から11月に行われる125周年記念式典の報告がありました。今年はホームカミングデーがなく記念式典が行われる。

10年前の参加者からはかなりの顔触れも変わった。もちろん最初から参加している会員もいるが、4、5年前から参加されなくなった会員もいる。新しく会員になった方や、会員だったけど初めて参加する人など、少しずつではあるが参加者が増えてきている感じがする。

還暦を迎える年代の人が多く、また定年を迎える会員もいて、年金、病気、これからの生きがいなどの話題で盛り上がった。腰を痛めしづらく動けなかった人や、「退職するとキョウヨウがあるかないかが大それだ」というので、何のことかと聞き返すと「今日、用(キョウヨウ)がある」という意味で、定年後の生活のことだという、笑えない現実的な話も聞かされた。もちろん「教養」がなければもっと悪いことになるが……。

酒も料理も口に入れる量が10年前とは明らかに減ったかもしれないが、こうやって会に出て飲食できることが幸せなことかもしれない。会場のレストランは半分をパーティーションで仕切って営業中だったが、そこらも同窓会らしき20人くらいの団体客がいて盛り上がっていた。

恒例の校歌、応援歌を小澤さんのリードで歌い、山崎司平副会長の一本締めでお開きになった。最後は全員で記念写真をパチリ。

二次会はすぐ近くの「咲くら」で十数人が集まって2時間の懇談の輪が広がりました。(広報部)



会員からのエッセー

「もう一度〇〇したい△△」を語る

今になって思い出す、あの時あんなこと……。心のどこかに今でも鮮やかに残っている思いがあります。そんなとっておきの思い出の数々が会員の皆様から届きました。(レイアウトの都合により一部割愛させていただきました)

新しい人生を 始めたい

長瀬 教子(文) 埼玉県
北葛飾郡

「今から、新しい人生を始めたい」。そんなことを妻が言いたしたもので、すから夫は苦い顔をして言います。「何が不満なんだ?」いいえ、不満は何もないんです。3人の子供たちは立派に育ち、「さあ、これからは自分の思うように生きたい」という、ごく自然の感情の発露なんです。

実は私は大学時代、漫研に所属していき、結婚してから遅咲きの漫画家デビュー。15年あまり、少女マンガやレディースコミックを描いてきました。その後、家庭の事情と能力の限界から、介護施設の看護職に転身。約15年間、お年寄りの介護に関わってきました。

その中で、お年寄りたちが幼稚園でやるような作業をしているのを憂い、高齢者のための本格手芸『プランティングフラワー』を考案し、現場で実践してきました。目標は、プランティングフラワーを日本中に広げることです。

マンガ、介護、手芸。一貫性のない

経歴ですが、それが、近い将来集大成として、実を結びつつあります。本の出版が決まりそうなのです。

思うように生きてきて、そしてこれからもそうさせてもらえざる幸せ。退職へのカウントダウンが始まった夫に、感謝をこめて「今まで家族のために一生懸命働いてくれて、ほんとうにありがとう。これからは私が代わりに働きますので、どうぞ自由に羽ばたいてください。青春のころのように」

もう一度行きたい ゴールドコースト

黒川 憲治(法) 東京都
東留米市

今年も無事ゴールすれば、ホノルルマラソンは連続19回完走(歩)達成となる。最初は92年の第19回のホノルルマラソン。マラソン仲間3人で参加した。59歳のNさんと47歳のOさん、そして42歳の私という陣容。結果、年齢順にNさん、Oさん、そして私という順にゴール。今思えば懐かしい思い出。そのNさんとは、94年7月に何とマラソン3回目でゴールドコーストに挑戦した。そ

の大会には今では宮崎知事になったそのまんま東さんと、世界一周マラソンに挑戦中の間寛平さんが参加していた。このお二人とは途中で抜きて抜かれたりで走っていたのだけれど(そう思っていたのは私だけだろうけど…)、折り返し点前で抜かれてしまった。

「ナンバークード910、クロカワ」とのアナウンスの中、5時間21分31秒で何とかゴール。ゴール時にあまり人がいなかったので、ゴールしてもらったようだ。私より1時間も早くゴールしたNさんはゴールをしてもうれしなかったと、悔しそうに言っていた。遅いゴールを慰めてくれたのかも…と今となってはそう思えてならない。

そのNさんとは92年、翌93年の第20回、98年の第25回と節目のホノルルマラソンを一緒に走った。そのNさんが急逝して2年。ゴールドコーストマラソンは数年前に私たちが走ったコースから少し変更になった。Nさんとはコースも変わったことだし、私が60歳の定年になったら、「リターンマッチで走ろうよ」とよく話したものだ。今度は私のほうが若いので、Nさんの名前が呼

ばれるのをゴールで待っているように憎まれ口をたたきつつ。

残念ながら、その約束は果たせなくなってしまう。でも、来年が20回連続となるホノルルマラソンを走りきったら、12年のゴールドコーストマラソンに参加しようと思っっている。そして、ゴールしたときに、「ナンバークード〇〇、N」と言いつもりだ。



学生時代の皆さんに お礼を言いたい

中畑 義明(文) 福岡県
久留米市

学生時代がまるで数年前のごとくように鮮明に蘇るのは私だけではないでしょう。しかし、私と同じ思いで振り返る人は多くはないはずですから。なぜなら、お世話になりながらお礼の言葉も言わずにいるのですから。

工業高校を卒業した私にとって、文学部入学が夢でした。その夢が叶う直前に父の会社が倒産し、全てが不安でした。入学式終了直後、厚生課で事情を話すと、即奨学金の申請のみならず厚生課のアルバイトも勧められ、駿河台での学生生活が始まりました。そして「蓋学生、出世払いで飲みに行くぞ!」とよく誘われ

ました。またこんなこともありました。クラスのコンパで担任の隣の席しか空いていず、遅く行った私は必然的にそこに座り、訊かれるままに家の事情を話しました。そして担任に再会したのは、大学を卒業して教員になって数年後、大学のエレベーターの中でした。「中畑君だよね」の一言に言葉を失い、恐縮してひたすら見送るだけでした。なぜなら「3度無断で休んだら除籍」のはずが数回出席しただけで、ロックアウトで試験レポートに代わり、教科教育法で単位が貰え、教員になれた訳がその時はっきりしたのです。

アルバイトに明け暮れていたのも、学友との付き合いも限られ、酒もマージャンも縁のない学生生活でした。とは言え、何よりの楽しみはクラスの女性と上野の文化会館に音楽を聴きに行くことでした。コンサートの後、二人で歩いていても思いを伝えられずに切ない気持ちで一杯でした。

そして何より残念なのは在学中クラスのコンパは1年の時と卒業の時の2度だけ。おまけに卒業アルバムどころか住所録すら持たずに卒業したことです。

東北生まれの私が、その後、神奈川県、千葉、そして福岡で教員をしていられるのも、不安で仕方のない学生時代を温かい眼で見守ってくれた人々がいたからこそ感謝しています。あの経験があったからこそ曲がりな

りにも自分の道を歩めたと思っています。もし叶うなら、もう一度級友と、そしてお世話になった人々と酒を酌み交わしたいと思うのです。

仲間を大切にしたい

六戸 平和(経) 東京都世田谷区

私は卒業後、家業の青果店を30年間経営してまいりました。昭和53年に結婚して一男、三女に恵まれました。長女は助産師で内科医と、長男は二度の転職を経てコンピュータ関連の営業マンで中学校の体育教師と、次女はホテルウーマンで映像技師とそれぞれ結ばれ、三女は早稲田大学スポーツ学部4年(大学院進学希望)柔道部主将です。

後継者に恵まれず3年前に商売をやめ、自身の不動産管理で生計を立てております。今までお世話になった地元地域のため何かお役に立ちたいと常々思っております。

商店街活動や地域の方々とのふれあい、京王線立体化に関わる街づくりに携わるなかで、地域の価値を高める・誰にも心地よいユニバーサルデザインの街づくりを実現するため、本年8月非営利型の「株式会社まちづくりステーション」を設立し、代表取締役就任いたしました。

私の心の根底に仲間を大切にしたいという気持ちがあります。幼少期の近所の仲間、小・中学校の同級生、

高校・大学の運動部連中、大学OB会や49年卒業の関東学生アメリカンフットボールの仲間たち。とにかく生きていくなかで友人や知り合いほど大切なものは無いと体感しています。時には悩みを打ち明けたり、また相談に乗ったり、助言を受けたり、刺激を受けたり、与えたり。

これからも自分らしく、日本人らしく生涯、社会と家族と楽しく悔いの無い一生を過ごしたいと思っております。



もう一度会いたい 60歳の母

荻原 紀行(法) 東京都三鷹市

母が亡くなったのは、平成13年6月30日です。享年77歳でした。母が70歳の時に、脳梗塞で倒れ左半身に麻痺が残り、障害等級2級の判定を受け、辛い闘病生活を7年間余儀なくされました。また、同時に、小生のごすすわからない痴呆が始まりました。

60歳を過ぎてからの、そんな母の口癖がP.P.K(ピンピンコロリ)でした。でも、人生なかなか思うようにはいかないものです。小生は、母が倒れたときは、北海

道の札幌に勤務しており、亡くなった時は、群馬県の前橋に勤務しておりました。大事なときに傍に居てあげられなかったことが、いかに生命とはいえ、一人っ子の自分には未だに悔いが残ります。

今まで仕事、仕事で過去を振り返る余裕もなく、毎日を通してきまじしたが、最近この歳になり、健在だった頃の母にもう一度会って、母の人生や、自分の人生の色々な話をしてみたいと思う今日この頃です。

もう一度歩きたい 散歩道

三橋 勝美(法) 神奈川県横浜市

今から半世紀(正確には49年)も昔に遡る小学校の5年生であった私は、その年の夏休みを利用して転地療養のために、東京の飯田橋にあるT病院に入院した。

私は、2歳位の時から小児喘息に罹り、以来、40年近くに亘り喘息の発作に苦しみ、悩まされる日々が続いた。現在は、すっかり完治し心身とも健康であるが、小学生の時は病気が最もひどい時期であった。そんな私を心配した両親が治療の一環として、T病院に入院させることになったのである。

喘息という病気が発作さえ起きなければ、ほぼ健康者と変わらないものである。入院早々に、看護師さん達とも仲良くなり、そのうち、朝の

検温の手伝いをするようになった。看護師さんと一緒に毎朝各ベッドを回り、体温計を患者さんに渡し、一巡すると、今度は体温計の回収にまた回るといったのが日課となった。

そんな入院生活の中でも私が一番楽しかったのは、夕方の散歩である。私が子供心に憧れていたIさんとの散歩である。Iさんはとても明るくて美人の看護師さんだったが、私のことを大変可愛がってくれた。勤務が終わると散歩に行こうとよく誘ってくれた。病院のすぐ前が川で、夕暮れ時の川面から受ける涼風で気分が少し高揚したこともあったと思うが、川の堤防沿いに手をつなぎながら散歩することが子供心にも最高に嬉しかった。

何を話したかは、今では全く記憶に無いが、もし、奇跡的にもう一度出会えたら、あの川沿いの道を散歩しながら当時の思い出話をしたいと思っている。

もう一度行きたい バルセロナ

黒澤 義己(法) 千葉県市川市

子供のころ、何となくスペイン語に憧れていた。テレビが普及してだいぶ経った時分に、目の前に現れたのが、「ソロ」である。面白かった。ソロの舞台背景は、開拓時代のアメリカ西部、カリフォルニアである。当時彼の地はスペインの統治下

にあり、スペイン語が公用語であった。ソロがかっこいい、そしてそのかっこいいソロが時々使うスペイン語が、またかっこいい…。子どもといふのは単純なものである。

時代は下り、私の30歳白最後の夏。たまたま1週間まるまる休みが取れることになった。サラリーマンとしては、滅多にない好機だった。妻と相談し海外旅行をすることにした。行先は？ そう、スペインである。迷うことなく、選んだ。折しも、バルセロナ・オリンピック開催の前年であった。

バルセロナ、マドリッド両方回ったが、最初のバルセロナが良かった。何と言っても、ガウディの建築物がある。「サグラダ・ファミリア」など、異次元の建物である。しかも、ガウディはとっくに亡くなっているのに、当時まだ建築中、そして何と、あれから約20年経った今なお工事は進められているのである。

あれからどの程度工事が進んだのか、当然見てみたい。そして、建物のでっぺんまで登ってみたい。実は、私は前回、下から眺めただけで、上には登らなかったのだ。何しろ行ったのは夏。暑くて暑くて、とても上まで登る気にはならなかった。私より何歳か若い妻は、登りたがっていた。今でもこの話題になると、私は妻に責められる。

私がもう一度行きたいところ。今度は季節を選んで行ってみたいと思っている。

友へのメッセージ

日課はボランテイヤ

三瓶 富子(文)

等、学が事が多くとも興味津津です。

無縁社会からの脱出

私は大学時代は引ッ込み思考で、友人も少なく名前も思い出すのが大変でした。敬称略で申し訳ありません。渡辺八一、目良卓、お元氣ですか。在学中は文学旅行をよく二二緒しました。卒業後の交流は途絶えがちになってしまいました…。

就職は金融機関に勤務、勤続31年目に母親の介護の話が出て、早期退職をしました。在職中から土、日は近くの都立公園の花壇ボランテイヤに参加し、園芸に興味を持ちました。園芸とボランテイヤの勉強を始めて、日本がボランテイヤ活動においては欧米に比し後進国で有ることを知りました。

園芸も土作り、植物の育成、花壇のデザインと好奇心がどんどん深まりました。東京都環境局の「緑のボランテイヤ一級認定指導者」になってからは、東京グリーンシップ・アクションに参加しています。放置された竹林の整備や里山作りに時間を費やしています。

現在は竹林整備作業のため、「竹の学校」で講座を受講中です。この学校では竹の種類や伐竹後の活用法

テイヤに高齢者の方々の参加導入ができるようなコロボを進めているところです。

皆さんも還暦を迎えた方が多いと思います。また会社を定年退職して毎日が日曜日の方もいらっしゃるかと思います。これからは健康に気をつけますと人生85歳まで、まだ約25年あります。

これからボランテイヤ活動等を考えている方は、自分が何が好きで何ができるか、趣味が少ない方は好奇心旺盛に、ご自分が何をできるかわからない人も、地域のボランテイヤセンターを覗いて見られることをお勧めします。そこには生きがいになる何かが発見されます。またまた頑張ります。

現在、一人暮らしの高齢者の方の「ひきこもり」や「孤独死」という「無縁社会」が問題になっています。高層団地の一人暮らしの方の「無縁社会解消」のための声かけの一環として、団地自治会役員と「さくら・さくら」の会」として、花壇のボラン



らくくがき 楽苦我喜 高柴富士男(経)

父が七月に死去した。91歳だった。父は認知症を患っていて、家からショッピングカーを押して一人どこかに行ってしまう、交番から電話がかかってきたりした。こういうことが何回も重なってくると肩身が狭くなり、家族も対応を練った。区役所の福祉課や地域包括支援センターを訪ねたりし、特別養護老人ホームへ入居させようということになった。3年待たなければ入れないといわれたが、幸運にもかなり早く入居できた。介護認定が4であったのが高齢だったからだろう。

特別養護老人ホームでは父は騒ぎを起こすことはなく、家にいる時よりはよっぽど良かった。ここでは高齢者にも生きがいを与えようと、東京タワーへ行ったり、バスで町を遊覧したり、パーティをしたりと入居者の慰勞に努めている。父も満更でもないような顔つきをしていた。

こういう生活が1年程続いたが自分の姉の訃報や親戚の人の訃報などが相次ぎ、元気がなくなってしまう、点滴で栄養補給をするようになった。こうなることも長くなかった。私は点滴でも一月ぐらいもつだろうとのんびり構えていたので臨終を看取することはできなかった。父の骨は少し黒っぽかった。四十九日は終戦記念日にと和尚さんが決めてくれた。その日は快晴だった。御経をあげてもらい、沢山のお塔婆を立て、遺骨をお墓に納めてもらった。これでお墓に主ができた。

四十九日が過ぎて家に蝦蟇蛙(がまがえる)がでた。母が裏庭で見つけデイサービスの人も見つけ、私も見つけた。しかし数日の間だけで後は全く見なかった。父は蛙が咽を鳴らすような仕種をしていたから、もしかしたら蝦蟇蛙になったのかもしれない、輪廻転生というではないか。

母は父と年はそれ程変わらないがとても元気だ。週一回デイサービスに通っている。後10年もすれば百歳を迎える。そうしたら表彰されるだろう、私はそれを期待している。

ちょっと役立つ アラカン 写真講座



葬儀に行ってちゃんとした遺影にお目にかかることが少ない。考えてみると自分の肖像をちゃんと撮ってもらったのは免許証の更新時…。手頃なカメラできれいに撮る方法をプロカメラマンの高橋さんがレクチャー。1回目は「ポートレートを撮ろう」です。

カメラマン 高橋 和幸(法)

今回から写真講座を始めます高橋和幸です。カメラは僕が普段使うようなプロ用の高級一眼レフカメラではなくこの家庭にもあるコンパクトカメラを使います。これからの講座をしっかり身につけていただければ、普段無視されている奥さんにもかわいい孫にも喜ばれること請け合います。

それでは始まりです。今回は「ポートレートを撮ろう」です。この歳になるとなかなか自分のまじりとした肖像写真がありません。そこで自分らしさを写すということ。これは毎年まじりと撮って、自分の顔に責任

を持とうという気持ちでもありません。エーイ。というところで遺影にも使える写真を撮ります。過日岳父が亡くなった時です。急なことだったので肖像写真がなく、昔のスナップ写真を使ったのですが、これがプリントで渡した上にピンボケ写真。おかげでたくさんの中問者には不評を買いました。2枚の写真を見てください。まず上のスナップ写真。これは遺影には使いつらいです。下の写真のように背景をすっきりさせておくと使い勝手があります。撮影場所のポイント



は、家の中の窓側で自然光が入ってくる場所を選びます。次に観葉植物とか柱、棧などが写真の中に写りこまない方がいいです。カメラ位置は縦に構え、脇をしかり締めて静かに撮ります。奥様に撮ってもらったとき

「はら僕たちの若い時を思い出してごらん」なんていうと、当時の恋の余韻を思い出して「そうだわあの頃はこの人も格好よかったわ」なんて心に思い出しいい男に撮ってくれませんか。内側から顔の横に白い紙か、布団のシーツを立てるとレフ板代わりになって柔らかな写真になります。感度(ISO)を上げて、シャッタースピードを速くします。そうすることで写真のブレを防ぎます。素人の人のピンボケはほとんどが手持ちのブレです。これでクリアな写真が撮れます。

保存はCDにしておくと、いざという時に葬儀屋さんでこれをそのまま渡すことができます。プリントからの複写ですと間違いなくピンボケになります。死んでまでみんなに「相変わらずこいつはボケてるね」なんて言われたくないものです。

第4回白門ゴルフ会奮闘記

2010年 高木一成(理)

9月11日(土) 平成21年春に第1回大会を4人1組でスタートしましたが、今回の第4回で初めて2組8名で開催すること

ができた。宮崎から参加の黒木兼一郎氏をはじめ、山崎司平、荻原紀行、大竹力三氏の常連に加え、初参加の小林隆宣氏、友人の日野氏と弊愚妻の8名。

真夏日の更新が続く異常気象の中、9月11日に埼玉県の飯能パークカントリークラブで行われた。前日の雨でいくらか涼しさを感じる好天の下でスタート。

早速ホール目のロングホールから、初参加の小林氏のあわや2オンかという剛腕がきく裂してのパースタート。これに対して遠征の疲れも見せずに黒木氏も着実にパーでス

ターゲット。それに引き換え夫婦で一緒に回った私はトリプル。妻からは「私はダボ、貴方どうした」とときまやかれカチーンとするも辛抱。時々後続の組からは何やら騒々しい声と笑い声が風に乗って響き渡ってくる。

昼食での(ノン)アルコールでエネルギー満タンにした後続組は、後半のラウンドを日野氏が初の39、荻原、大竹氏が自己ベストのスコアを達成した。一方私たち夫婦は、黒木、小林氏の快進撃を邪魔しないように

ついて行くのがやっと。結果は80台が3名、90台が2名、100台が1名、110台が2名とハイレベルの大会になった。

次回は平成23年3月19日(土)飯能パークカントリークラブ。49年白門会のHPでもお知らせいたしますので皆さんふるって参加してください。大半が現役を離れる数年後は平日に開催したいと思っています。スコアには関係なく楽しいですよ。

猛暑の真昼、ビアパーティー

2010年 小澤秀敏(経)

7月31日(土) 今年も49年白門会、夏恒例のビアパーティーの季節がやってきた。真夏日が続いていた7月31日の土曜日

正午、銀座中央通りから一本入ったところにある隠れ家的なレストラン「ライオン銀座」丁目店に、49会のメンバーが三五五々集まってきた。

参加予定は14名。予定時間が来たが、まだ3名が来ない。その時携帯に電話が入った。近くまで来たが、店が見当たらないというので迎えに出る。中々会えず、しばらく探したあげく、ついに遠くに姿を見つけた無事合流。でも、依然として参加予定者の2名が来ていない。

2名未着で定刻15分遅れのスタートとなり、山崎会長の乾杯の発声でビールを一気に飲み干す。猛暑の真昼間に飲むビールは美味い！イベント初参加の会員も古くからの会員も、アラカンとは思えぬ勢いでビールと料理を口に運んでいく。ライオン伝統の「チキン唐揚げ」はやはり絶品だ。こうして飲み放題付きのパーティーはアツという間に2時間の制限時間を迎えたのであった。

後日談だが、二人の内一人は完全なる失念で、もう一人はキャンセルのメールを入れたそうだが届いていなかった……ということらしい。なんでも当日は神輿を担いでいたか。

浅草寺参拝と「花やしき」

2010年
10月16日(土) 山崎厚太(経)

秋晴れの好天に恵まれ半袖が良かった1日でした。遠方からは名古屋から加納さん、新潟から松立さん、ご夫婦で参加の山崎司平ご夫妻、初参加の平田さん等総勢18名のおりさんご一行です。

事業部長の小澤さんが中大附属高校の同級生で「花やしき」の中の全飲食店をプロデュースしている宮下さんから「花やしき」の入園券十乗物券3枚の招待券を頂きましたので、これが大受けでした。

集会場所の浅草駅から建設中の東京スカイツリーを右手に見て浅草寺参拝と太極化展に行く予定が、菊は咲いていずガッカリ。しかし、菊はなくとも浅草寺の仲店通りは大賑わい、両脇の店も珍しいものばかりで目移りがしてしまいます。

途中浅草寺の改築現場を覗きながら「花やしき」です。最初

に宮下さんの店でビールの乾杯。周りは子供連れの家庭ばかりで、昼間からビールを飲んでいる我々もいづらく

なってしまう。先ずBeerタワー、これはワイヤーでつるされた5〜6人乗りの箱形の乗物が回りながら上へ上がっていく、あたりが一瞥に出来ます。次はスリッパカー、お化け屋敷の中を2人乗りの車がレールの

上を走ります。真つ暗な中で思わずキヤー。最後はローラーコースター、ジェットコースターです。狭いトンネルの中に突っ込んでいくので迫力満点です。

「花やしき」を後にして猿轎製場「大黒家」へ。ここは太鼓の老舗。ここで藤藤さんが合流して18名がぞうい

ました。話がはずむ中、山崎司平さんと夫婦のなれめの話が出ました。一回そうだったのかと納得。また、元海上保安庁の石川さんから、自分も糸蘭諸島で中国、台湾漁船と対峙したとの話

9月11日から4泊5日、司馬遼太郎の「街道を行く」を片手に、下北半島を中心に青森を歩く一人旅に出た。帰る日を決めない放浪の旅に出たいのだが、まだ現役で、そこまでの自由はない。

早乙女貢の「会津土魂」など幕末の会津藩に関する本を読まれている方にはお分かりいたいただけると思うが、会津藩の歴史には同情を禁じえ



もあり、あっとゆうまの時間でした。童心に返った秋の一日でした。

ない。どこよりも勅皇の志の篤かった会津藩28万石は朝敵の汚名を着せられ取り潰され、一年後に下北半島で3万石の斗南藩としてお家再興が認められた。下北半島は恐山もある不毛の地、藩士が復興を夢見て移住し懸命に開墾したが作物はほとんど

できない。さらに一年後には薩藩置県により斗南藩も消滅した。かつて復興を夢見て藩士二百世帯

会費の納入についてのお願い

49年白門会は会費によって運営されています。未納入の方は、是非、会費を納めてくださるようお願いいたします。
年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

- ①郵便振替 (手数料は不要です)
振替口座番号「00180-3-196081」
口座名称 「49年白門会」
- ②銀行振込 (振込手数料が必要です)
銀行名 三菱東京UFJ銀行日野市役所支店 普通預金「0569115」
口座名 49年白門会 代表 山崎厚太

49年白門会連絡先・事務局

※住所・勤務先変更、新規会員紹介、お問い合わせ等、何でもご連絡ください。
※年2回発行するこの会報へ、広告の出稿、詩、俳句、エッセー等の原稿、企画案、ご意見をお寄せください。

49年白門会幹事長 中島章夫
東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学生会事務局
電話 042-674-3468 (学生課) FAX 03-3219-6177

※メールアドレスの登録・変更は
hakumon@gray.plala.or.jp にご連絡ください。

事業部掲示板

新年会

例年どおり「Sunmi高松」で行います。今回から開始時間を午後1時から3時

後1時から繰り上げます。美味しい料理とお酒で楽しいひと時を！
日時 平成23年1月29日(土)
午後1時〜3時
場所 Sunmi高松
東京都中央区銀座6-13-19
TEL 03-5568-3300
会費 6千円

葛飾柴又散策

ご存じ寅さんの故郷です。春の1日を、寅さんになりきって散策しませんか。
期日 平成23年3月12日(土)
詳しいお知らせはホームページなどでお知らせいたします。

編集
後記

斗南藩